

## 大会派遣 / 研修会参加

## 平成 30 年度全国高等学校総合体育大会男子サッカー競技大会 参加報告

----- 「高校総体に参加して」 2級審判員：岡田 将太 -----

8月6日から13日に三重県にて、インターハイが開催されました。

私は、研修審判員として、8月5日から9日の5日間、参加させていただきました。

初めに、派遣を決めていただいた兵庫県サッカー協会の方々、並びに、大会運営をしていただいた三重県サッカー協会の方々に感謝しています。

以下、参加報告させていただきます。

## 8月5日(日)【1日目】

まずは、2級の研修審判員のみで集まり、競技規則テストを行いました。

ここでは、Google フォームを用いて記号で回答をしました。競技規則については、理解していると思っていましたが、自分の理解が不十分であることに気づかされました。試合の割当を受けている以上、当たり前のことですが、普段からもっと競技規則についてはきちんと理解し、説明できるようにしなければならないと感じました。

## 8月6日(月)【2日目】

午前にはレフェリーフィジカルコーチの島田氏から、体幹について、水分補給について、リ・ジェネレーションの3つについて講義が行われました。特に私が印象に残ったところは、1試合で失う塩分量は、約3.0グラムであり、それを補おうとするためには、市販の塩分チャージのようなタブレットでは、約60個食べなければならないということです。また、リジェネレーション(再生)ということの良いパフォーマンスをするために、自分の抱えているストレスや、生活環境を見直すといった土台作りも必要であることを改めて学びました。

午後からはグループディスカッションとプラクティカルトレーニングを行いました。

柏原丈二氏より、2018年のスタンダードの映像を用いてのフィジカルチャレンジについて、柳沢和也氏より、6つの映像を用いて、グループディスカッションを行いました。6つのグループに分かれてディスカッションを行ったので、他府県の審判員との意見交流もでき、非常に勉強になりました。

プラクティカルトレーニングでは、オフサイドの見極めと動きとポジショニングについて行いました。オフサイドの見極めでは、iPadで撮影した動画をその場で確認し、フィードバックがすぐに行われることで、自分のラインのズレであったり、見極めの不十分さ、特に守備側競技者の片足を見切れていないことが多く、今後気を付けていきたいと思いました。動きとポジショニングでは、ハーフコートを使い、1人はレフェリーで、もう1人はシャドーで動き、荒木友輔氏よりすぐにアドバイスを頂きました。試合の中で「自分が今どこにいて、そこにいることでどこか見えなくなる可能性があるということを頭に入れておくことが、より良い判定につながる。」という言葉が非常に印象的でした。

## 8月7日(火)【3日目】

## [担当試合]

1回戦 13:00KO 前原高校 VS 山梨学院高校 @伊勢フットボールヴィレッジ Dピッチ  
R 田中陽達氏 A1 岡田将太 A2 町田貴志氏 4th 藤本真樹氏 ins 有田靖氏

この試合は、試合開始前の雷と雨により、キックオフが3時間遅れることから始まりました。私は初めての経験だったので、何が起きるかわからないこと、そして、それにどう対応するかなどを少しでも学ぶことができて良かったと思いました。試合では、前日のプラクティカルトレーニングで気づいたことを修正して、特に問題なく、ラインキープやオフサイドの判定をすることができました。

## 8月8日(水)【4日目】

### [担当試合]

2回戦 10:00KO 北海高校 VS 高川学園 @伊勢フットボールヴィレッジDピッチ  
R 安川公規氏 A1 村田裕紀氏 A2 若尾祐人 4th 岡田将太 ins 正木修一氏

この試合での反省としては、「ベンチにどんなタイミングで、どんな声掛けをするか。」でした。ベンチが熱くなってしまっているときにどうやってその熱を冷ますのか、レフェリーの考えを理解してもらうか、などのベンチへの対応の引き出しを増やすべきだと痛感しました。

## 8月9日(木)【5日目】

研修最終日は、割当が無かったため、各自観戦研修を行いました。

2試合を観戦しましたが、非常にレベルが高く、観客も2回戦より3回戦の方が増えていて、「自分も担当できるよう頑張っていかなければ」という気持ちになりました。

### 【最後に】

今回は、私にとって初めての全国大会で緊張もありましたが、毎日学ぶことばかりで、あっという間の5日間でした。

正直な感想は、まだまだ自分の経験、力不足だということです。兵庫や、関西、同年代の審判員が主審の割当を頂いているのを見て、非常に悔しく、「自分も負けてられない」という刺激になりました。インターハイに参加して得たことを無駄にせず、兵庫県でまた頑張っていきたいと思います。

来年度、高校総体に参加される審判員の方は、「分からないことは素直に聞く」ということが大切だと思います。5日間という短い時間ですが、それをするのでより濃い経験をすることができます。

最後になりますが、貴重な経験させていただいたことに感謝いたします。これからも兵庫県サッカー協会のため、頑張っていきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

— 「2018 彩る感動 東海総体 ～翔べ誰よりも高く東海の空へ～」 2級審判員：菅 翔太郎 —

### ●全体を通して●

この度の5日間の研修を終えて、自分の中での審判に対する考え方が大きく変わりました。

参加直前まで、「受験前に行く必要があるのか」と疑問を持ちながら少し複雑な気持ちでした。正直なところ参加することに”後ろ向きな姿勢”となった時間もありましたが、今は参加できたことに感謝と喜びの気持ちでいっぱいです。またチャンスがやってくるのならばぜひ参加させていただきたいと思います。

他府県から来ている審判員はみな大きな期待感と向上心を持って参加していました。そのような方々と共に時間を過ごすことで、自然と自分にも向上心が芽生えてきました。そして、自分に一番の影響を与えて下さったのが、一緒に審判チームを組んで下さった1級審判員の若松氏と手塚氏でした。

人生で初めて1級審判員の方とチームを組ませていただいたので、迷惑だけはかけずにやろうと思っていました。またお二人ともとても優しく「緊張せず、好きにやればいいよ。」「間違えたら俺の責任にして。」とサポートして下さいました。

しかし、いざ試合になると毅然とした態度で難しい判定もしっかりとジャッジされており、1級審判員の人柄の良さと寛大さに完全に惚れてしまい、いつか自分もお二人のような素晴らしい1級審判員になりたいと強く思いました。

今回、自分を引率して下さった谷添氏をはじめ、兵庫の方や自分を助けてくださった皆さんのおかげで、この5日間を有意義なものにすることができたと思っています。もし次にこの全国総体に参加させて頂ける機会があれば、そのときは1級審判員として参加したいです。それで、そのときに参加しているであろうユース審判員や若い審判員に今回自分がさせていただいた数々の援助をしてあげたいです。そして、自分の姿を見て自分と同じような気持ちにしてあげられるような大人になりたいと思いました。

## ●8月5日 日曜日●

17時に宿泊場所の「スポーツマンハウス鈴鹿」につきました。部屋割りは兵庫の人とはバラバラでユース審判員でかためられました。栃木県の芳賀君、三重県の新開君と3人で1部屋でした。

早速、19時からGoogleフォームを使用したweb形式にて、100点満点、時間は40分での競技規則テストが行われました。

第1問は今年度の改正部分からの問題で、第2問はペナルティーキック、第3問は主審としての基本事項の○×問題、第4問はプレーの停止、開始および再開からでした。選択式だったので難易度は低めだと感じました。

その後、島田浩幸氏から激励のお言葉をいただきました。

## ●8月6日 月曜日●

主にトレーニング、座学、講義の1日でした。

9時～フィットネストレーニングでは半面コートを使って、軽いランニングを行いました。その際、荒木氏から「頭を上から引っ張られるように意識して、顔を上げて走ると自然と胸を張ることができ、見栄えの良い走りができる。」と教わりました。

・プラクティカルトレーニング 黛俊行氏 荒木友輔氏 PR 簗城巧氏 PR

※PR=プロフェッショナルフェリーの略

「ボール回しからの動きとポジショニング」「オフサイド」

PRの荒木氏と簗城氏をはじめ1級インストラクターの方々にアドバイスをいただきました。

副審については、自分は最終ラインから体半分ずれているようで、それを動画で実際に確認させていただき衝撃を受けました。自分では完璧だと思っていましたが、ズれていました。そして簗城氏から「もっと細かいステップを踏み、できるだけボールとラインを横目で視野に入れ、最終ラインの競技者との距離を考えて、タッチラインのどこに位置するのかを判断できたらもっと良くなる。」と言われました。

主審に関して自分は、”とりあえず量を走って近くで起こる事象を見ることができたら良い”と思っていました。プラクティカルトレーニングでもそれを十二分に発揮できたと満足していましたが、荒木氏から「角度の取り方が悪く事象に対して適切なポジショニングではなかった。」と言われました。自分がインストラクターの方に良く指摘される部分でした。今のままでは、もっとレベルの高い試合になると、おそらくボールに追いつけなくなるし、判断に困ることがある。「近くで見ようとする動きや気持ちはとても大切だが、歳を取った時に走れなくなり見栄えが悪くなる。だから今の走力により良い角度でのポジショニングも意識したほうがいい。」と、アドバイスをいただきました。

このような素晴らしい方々にアドバイスをいただける機会は少ないと思うので、貴重な体験でした。

- ・座学 柏原丈二氏 柳沢和也氏

柏原氏より動画を用いたコンタクトプレーに対する判定の講義がありました。

1 テーブルに4人で座り、お互いに意見を出し合う、グループディスカッション形式でした。

「フェアでタフでスピーディーなサッカーを審判団がコントロールすることで、選手は育ちサッカーをより面白くさせることができる。」と教えていただきました。

柳沢氏より動画を用いたオフサイドに対する判定の確認をグループディスカッション形式で講義していただきました。

何回か見たことのある動画が題材となっていて、改めて強く認識することができました。

- ・バニシングスプレー 荒木友輔氏 PR

今大会、総体で初めてバニシングスプレーが使われることになり、荒木氏から講義していただきました。ラインを引く際の注意点として、できるだけ地面に近づけて引き、スプレーを垂直に保ちながら引くとうまく描けます。風や芝の質よりスプレーのマーキング具合がかわるので、上手に扱うのは難しかったです。

- ・今大会テーマ ～動きとポジショニング～ 今村亮一氏

- 一、審判団として試合に携わる4人であることを忘れない
- 二、感性与情熱を持つ
- 三、正しい判定に自信を持つ
- 四、審判団として勝敗に固執せず、信頼を得る

常にチームで責任を負わねばならないということ忘れずに、取り組まねばならないことを再確認できた。

## ●8月7日 火曜日 「1回戦」●

### 【担当試合】

日章学園（宮崎） VS 仙台育英（宮城） 10時 kick off Ins：柳沢和也氏

R 若松亮氏 A1 五軒矢良介氏 A2 菅翔太郎 4th 深谷聡一氏

PK戦で決着となる緊迫したゲーム内容だった。

「オフサイドが成立するときにはフラッグアップが全体的に遅く、守備側競技者の主張が聞こえてから旗を上げているように見えてしまう。まるで選手に操られているように見えてしまうので、もう少し早く確実に上げることが良い。もしも守備側競技者からの主張があった際に最終ラインからズレているようなことがあれば大きく審判団としての信頼を損ねることになってしまう。試合状況やボールと選手のスピードに応じた対応ができると良くなる。」と、アドバイスをいただきました。

## ●8月8日 水曜日 「2回戦」●

### 【担当試合】

星稜（石川） VS 國學院久我山（東京②） 12時 kick off Ins：柳沢和也氏

R 手塚優氏 A1 関口雄飛氏 A2 福田敏氏 4th 菅翔太郎

「クーリングブレイク中にも交代が行われることを視野に入れて行動をする。ベンチワークとして前半に一方の監督がIDを首から下げずにベンチにいたことを相手を不快にさせず促せたことは良かった。しかし、後半にその監督がテクニカルエリアを少し超えて指導しているのを注意できなかったのが今後の課題だろう。」と、アドバイスをいただきました。

終わったから言えますが、自分は過去1度も4thを務めたことが無く不安でした。初めてが全国総体という大きな舞台なので緊張を隠せずにいました。すると、審判団の皆さんが詳しく何をすればよいかを教えて下さり、大きなミスなく終えることができました。審判団というチームの団結力がどれほど大切なのかを知ることができました。

## ●8月9日 木曜日 「3回戦」●

### 【見学研修】

桐光学園（神奈川②） VS 明秀日立（茨城） 10時 kick off Ins：柳沢和也氏

R 松本康之氏 A1 山田颯一郎氏 A2 平野裕一朗氏 4th 若松亮氏

自分は割当を頂けなかったので、見学研修でした。

序盤からボールを大きく蹴ることが多く、審判としては運動量が多くなる展開が続いていましたが、事象を良い角度で確認して毅然とした態度を取られていました。副審とのアイコンタクトも適時行ない、さすがだなと思いました。しかしながら関心と同時に悔しい気持ちもあふれてきました。ユース審判員だからといって「3回戦は割当が無い」という決まりは無いので、自分が力不足だったのだと思い知らされました。

さらに、1日目に行われた競技規則テストの結果で割当が決まっているようではありませんでした。自分にはアピールポイントが少ないので、テストで満点を取る気持ちで臨みましたが、それも果たせませんでした。最後の日になり、いろいろ思うことはありましたが、後悔はありません。

## ●自分に足りなかったこと●

自己管理と強い気持ちが、自分には足りていないと思います。

3日目のホテルへ戻るバスにスパイクとトレーニングシューズを両方置いてきてしまい、次の日、三重県の梶川さんにスパイクをお借りして第4審をしたり、最終日のチェックアウトをした後に部屋にスマートフォンを忘れてしまいました。運営の島田先生や他の皆さんにも迷惑をかけてしまいました。自分のこともしっかり管理できませんでした。

研修中にも皆さんは色々と言言をしたり、質問をしたりしていました。その姿を見て自分は「向上心」や「絶対に上に行ってやろう」という強い気持ちが欠けていると思いました。いつも「どうせ、別に。」が口癖で消極的でした。そして時間が過ぎれば、タラレバばかりを話して悔むことがほとんどでした。やはり自分には強い気持ちが足りていないと感じました。

## ●全国で通用したこと●

全国に通用したことは、唯一「若さ」だと思います。

体力面では絶対的な自信があったので、夏バテや熱中症にもならなかったです。それは若いからだと思いました。自分が全国に通用したことは、これだけだと感じました。

技術面でも精神面でも自分の能力は全国に通用するものではありませんでした。自己管理能力も乏しく自分が人として、審判員としてまだまだ未熟なのだとことを痛感いたしました。歳を取れば若さなど消えていきます。だから、自分の能力を上げることが必要だと思います。全国に通用する審判員になるには、まず自己管理を徹底して行うことです。いつもと違う場所や場面になった時、意識を張り巡らせすべきことを頭で整理することが大切だと思います。自己管理もできない者が他の審判員を助け、援助するのは不可能だと思いますし、技術面でも向上することはできないと思います。

また自分に余裕を作れるからこそ、よい審判員になれるのだと思います。自己管理をできるようになり、強い精神を身につけることができれば全国に通用する審判員になれると思います。

### ●来年参加する審判員に向けて●

集団での行動となるので、周りに迷惑をかけないよう時間はしっかりと守り、何事も15分前には行動しておく方が良いと思います。色々な”初めての体験”ができるので、その場で感じたことや思ったことを忘れないようにその日の日記をつけると振り返るときに記憶を鮮明に思い出すことができるので、時間がある人はつけたら良いと思います。いつ何が起こるか分からないことを想定しておき、余計かなと思う荷物も持っていく方が良いかもしれません。

また「しっかりと上に行くという強い気持ち」や「向上心」を持って欲しいです。周りの人と友達になり他府県での交流も深めると良いと思います。色々な人とコミュニケーションを交わすことで自分とは違った考え方や感性を共有でき、勉強にもなります。そして何より終わった後に楽しかったと言えることが一番だと思います。良い経験にして、良い思い出”だけ”とならないようにすることも大切だと感じます。

### ●最後に●

誰もが経験できるわけでない大舞台を高校生で経験できたことは、自分の成長の大きな糧となるはずで、それを証明すべく学んだことは吸収し、活用していきたいと思います。

そして、ユース育成に力を入れている兵庫県に所属できていることに感謝したいと思います。キャリアも経験も少ない自分を送り出さしてもらった環境に置かれていることは、とても運が良かったです。自分が上に行き、良い成績を残すことがみなさんへの恩返しになると思うので、今後も頑張りたいです。

終わってホッとしている気持ちもありますが、今年は受験も控えているので、また勉強の方も良い報告ができるよう頑張りたいと思います。

### — 「2018 彩る感動 東海総体 ～翔べ誰よりも高く東海の空へ」 2級審判員：谷添 大地—

私は8月5日から8月9日の期間、三重県で開催された「2018 彩る感動 東海総体」のサッカー競技に研修審判員として参加させて頂きました。

まず初めに、今回このような経験をさせて頂いた兵庫県サッカー協会、兵庫県高体連、また三重県の高体連をはじめとする大会運営の皆様には感謝致しております。ありがとうございます。

この大会へは、全国各地から派遣された2級の方や1級審判員、女子1級審判員、近県派遣、県内審判員の約100名の審判員が集まっていました。私自身、全国大会へ参加させて頂くことは初めてだったので、緊張もありましたがとても充実した5日間でした。

### ●8月5日 (1日目) ●

宿泊施設、研修会場である「スポーツマンハウス鈴鹿」に17時頃に到着しました。

19時から研修が始まり、オープニングとweb(googleフォーム)を用いた競技規則テストがあり、主に改正後の競技規則から出題され、選択問題(40分)でした。

オープニングでは、三重県高体連サッカー専門部審判委員会委員長の島田氏より挨拶があり、その後1級インストラクターの今村亮一氏、柳沢和也氏、山田修平氏、黛俊行氏、柏原丈二氏、PRの簗城巧氏、荒木友輔氏よりご挨拶を頂きました。

この日の研修は20時半頃まででした。

## ●8月6日 (2日目) ●

9時から30分間のアイスブレイクをしました。その中で、「走るときの姿勢をどう意識しているか」という話があり、荒木PRより「上から糸で引っ張られているように意識して走ると自然と胸を張った良い姿勢で走られる。」ということをお話いただきました。

続いて講義では、JFA レフェリーフィジカルコーチの島田氏（高体連審判委員長）から

◇体幹とは ◇水分補給について ◇リ・ジェネレーション の3つについて話がありました。

## 《体幹》

副審の時に体が流れない、どちらの足を軸にするのか。

例えば、クリスティアーノ・ロナウドは1歩目から前傾姿勢を取り崩れない。体幹が安定している。インナーが強いからだ。ではこの体が安定している、体幹とは何なのか。

⇒体幹とは、体全体のことでない。

- ・横隔膜を中心とした部分が大事
- ・体は肩から足先まで、可動域、安定と順番にできている
- ・上半身は可動域が大切だが、体幹はしっかりしていないといけない
- ・大人になると子供のころに出来ていた動きが少しずつ出来なくなる  
※物を拾う動作。子供は膝を曲げて物を拾うが、大人になると膝を伸ばしたまま腰を曲げて物を拾うようになる。
- ・意識して可動域を広げることが大切

⇒横やねじれる動きに負けない

アンチ ローテーション  
ラテラル  
エクステンション

## 《効果的な水分・塩分補給》

自分が失った塩分に注目しなければいけない。

例えば、塩分チャージのタブレットは、1試合で失う塩分量を補うには約60個食べなければいけない。これを経口補水液に変えると2本〜3本で補えるようになる。水分補給も水だけでは危険であり、スポーツドリンクを飲まなければいけない。

意識的に塩分補給に目を向けて、パフォーマンスの為の回復に努めなければいけない。

## 《リ・ジェネレーション》

良いパフォーマンスを発揮する為には、普段のトレーニングももちろん大切ですが、リカバリーも大切だということをお話いただきました。身体的なりカバリーと生活の中の様々なストレスに向き合い、精神的なりカバリーが非常に大切で、うまくリカバリーが出来なければいいパフォーマンスには繋がらない、ということをお話いただきました。

## ○プラクティカルトレーニング○

テーマ：動きとポジショニング「信頼を得よう」

2つのグループに分かれてプラクティカルトレーニングをしました。

## ①主審「動きとポジショニング」 荒木友輔PR

ピッチの半分を使い、デモンストレーターの高校生にお手伝い頂き「動きとポジショニング」を意識して行いました。一人ずつ主審をした後、荒木PRと第1級INSにアドバイスを頂きました。『なぜそこに行ったのか、何が見たかったのか。そこに行くことで次にどこが見えやすくてどこが見えにくくなるのか。』という事やPKの際、笛を吹いてペナルティマークに近づくと「ファウルした競技者を見逃すリスクや囲まれる可能性がある」というテクニックやアドバイスを頂きました。荒木PRのシャドーレフェリーでは、余裕を持った動きと視野の確保、走り出しのタイミングなど、ポジショニングに意図を持って次を意識して動くことの大切さを学びました。

## ②オフサイド見極め 聳城巧 PR

攻撃側競技者、守備側競技者にすれ違ってもらい副審がオフサイドの判断をし、iPadで撮影した映像を確認しました。そこで感じたのは、守備側競技者の片足が残っていて、オフサイドに見えたものがノットオフサイドであるケースが多かったです。3段階のスピードで行いましたが、今までの自分の見極めの甘さを痛感しました。

## ○バニシングスプレーの使い方○ 荒木友輔 PR

今大会は選手権に向けた、「バニシングスプレーのリハーサル大会」という事で、荒木 PR より使用の際の注意点や説明をして頂きました。

①ボールの後ろ半径に引く（全周に引くと踏み込みの時滑るので嫌がる選手がいる為）

②9.15m測ったら、ボールとの距離感を目測で確認してOKならば壁の位置に引く

※目測せずに引くと万が一近かった時などに消すことが出来ない為

③選手にお尻を向けて引かない

また、テクニックとして壁に入る競技者と一緒に9.15m離れて線を引いたり、先に9.15mの距離に線を引いて離れるよう伝えるやり方もあるという事を教わった。

## ○講義○

まず、柏原 1 級 INS より 2018 年のスタンダードの映像を使って「タフなプレー」と「ラフプレー」の違い、懲戒罰の基準、戦術的な意図を持ったファウルについて説明がありました。

次に、柳沢 1 級 INS より映像を使ってのグループディスカッションがありました。

6つのグループに分かれてそれぞれ与えられた映像をみてディスカッション・発表し、全体共有する流れでした。映像は主にオフサイドの判定でした。1つの映像を見て他府県の審判員と意見交換が出来るのはとても新鮮でしたし、自分が持っていない観点が話が出来て良い刺激になりました。

また大会を通して審判員にはテーマがありました。

## ◎動きとポジショニング「信頼を得よう」

研修期間中は毎日、夜に集まりその日の試合の振り返りを行い、次の日に向けたミーティングがありました。その中で印象に残っていることがいくつかあります。

①感性と情熱を持ち、正しい判定に自信を持ち、審判団としての勝敗ではなく信頼を得よう

②自分を大切にしなければ、人は大切に出来ない

③不用意とアクシデンタルを整理する

④アドバンテージの考慮点を考える前に、そもそも、それを適用する状況かを考える

⑤ポジショニングと動き + 判定 = 信頼 ⇒フィジカル

⑥0コマ数秒は我々には貴重な時間 どんなタイミングでどこに動くか

⑦近くで正しい判定は must

## ●8月7日（火） 【1回戦】 ●

[担当試合]

米子北（鳥取）× 宇和島東（愛媛）

R 筒井勇氣氏（東京） AR 聳城巧氏（神奈川）、谷添大地 4th 斎藤雄弥氏（三重）

▶この試合での課題は、自分の左（特にタッチライン際）からのクロスボールの時、オフサイドラインからズレてしまう事です。それにより判定が難しくなってしまったシーンが1度ありました。正しい判定をするため、どのように視野を広く取りパスの出どころとオフサイドラインをどれくらいの割合で意識して見るのか、改善しなければいけないと感じました。

## ●8月8日(水) 【2回戦】 ●

[担当試合]

明秀日立(茨城) × 藤枝東(静岡)

R 谷添大地 AR 聳城巧氏(神奈川)、濱松太一氏(高知) 4th 植野将大氏(京都)

▶この試合では1試合を通してポジションが納得いかず、頭上をボールが通ったり巻き込まれてしまう事が何度かあった。チームの戦術や攻撃パターンを感じることで改善は出来たと思う。クーリングブレイクを取るタイミングも悪かった。ゲームの流れを読み的確なタイミングで取る事。試合の終わらせ方も同様に、アディショナルタイムは5分であったが、実際に終わったのが6分過ぎ。コーナーキックが続いた為、終わるタイミングを見失った。得点が入ると揉める原因となり、チームが黙っていない。

## ●8月9日(木) 【3回戦】 ●

[担当試合]

東福岡(福岡) × 三浦学苑(神奈川)

R 畠山大介氏(宮城) AR 関口雄飛氏(埼玉)、谷添大地 4th 黒川健吾氏(滋賀)

▶主審との違いが1回あった。Rサイドからのクリアボールがタッチラインを割ったが攻撃側競技者に僅かに触れていた。主審は近い位置で見えており、AR2の私が先に逆を差すような場面ではなかった。落ち着いて主審に合わせる事が重要。

インターハイでは3試合割当てを頂き、課題がたくさん見つかりました。主審を頂いた試合では、マッチミーティングでユニフォームの色の決定の際、自分の思いが一方の監督には伝わらず、副審であった聳城巧PRに助けて頂きました。マッチミーティングが終わり控室に戻った時に「主審だから思ったことはきちんと伝えるように。」とアドバイスを頂きました。また、クーリングブレイクのタイミング、試合の終わらせ方など自分の試合への気配りの無さが課題として残り、今後改善をしなければいけないと痛感しました。

嬉しかったのは、3試合3会場とも競技者はもちろん、会場にいる大会に関わる様々な方とコミュニケーションが取れ、「いい試合を皆で作る」という一体感を感じられたことを全国大会で経験出来て良かったです。

## ●来年高校総体に参加する審判員へ●

私は今回が初めての全国大会で、何もかもが刺激的で本当にいい経験をさせて頂きました。

全国から審判員が集まっていますので、私は出来るだけ色々な人と交流をしよう、話をしようと思いましたが、まだまだ時間が足りないと思いました。あと分からないことは素直に質問をする、誰かに聞くという事は恥ずかしい事ではないと思います。全国大会という素晴らしい場所でモヤモヤを残して帰ってしまうのは勿体ないです。全国大会は間違いなく、自分が成長できる場所だと思います。来年参加される方は頑張ってください。

## ●最後に●

今回このような本当に素晴らしい場所に行かせて頂いたことを感謝しております。

これも日頃からお世話になっている、兵庫県サッカー協会、兵庫県高体連、丹有サッカー協会、インストラクターの皆様のおかげです。

また、三重県サッカー協会、三重県高体連の皆様にも感謝しております。本当にありがとうございます。この経験を胸に、今後も精進していきますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

----- 「高校総体に参加して」 2級審判員：福岡 渉 -----

この度、三重県にて開催された「平成30年度全国総合体育大会サッカー競技大会」に審判員として参加させていただきました。

研修審判員として、大会に派遣をしていただいた兵庫県高体連、兵庫県サッカー協会審判委員会の皆さま、大会運営をいただきました三重県の関係者の方々に感謝しております。

ありがとうございました。

### 【研修1日目】8月5日（日）

Webによる競技規則テストが実施された。改正をされた競技規則から出題され、選択問題を40分にて行われました。

競技規則テスト後、1級インストラクター今村亮一氏・柳沢和也氏・山田修平氏・黛俊行氏・柏原丈二氏・PR 聳城巧氏・PR 荒木友輔氏より挨拶がありました。

### 【研修2日目】8月6日（月）

島田 Referee physical Coach によるフィジカルトレーニングを行った。

ジョギングやランニングを行い、2人1組にてDFの上下の動きにサイドステップを使用した副審の動きをした後に、最後に主審と副審に分かれてアイコンタクトを取りながらロングスプリントを行いました。副審の動きで、聳城氏より「ライン際ではボールが出たか見なければならぬが、そうでない時は1歩タッチラインから下がれば視野が広がる。」という事を教えていただきました。

## ■座学（講義）+ 実技 + 試合

島田 Referee physical Coach によるフィジカル講義

副審の動きとして上半身がぶれずに、一歩目から前傾姿勢がとれる事が理想である。

横隔膜を中心とした部分が大切。

子供の頃にできていた動きが、大人になってから少しずつできなくなっている。

意識をして可動域を広げることが大切。

### ○水分補給について

①[考え方] 日常生活→水 激しい運動→スポーツドリンク。

②[摂取の仕方] 一度に大量に摂取をすることは逆効果になるため、適量をこまめに数回に分けて飲む。

### ○気温が高い時

1回200ml~250mlの水分を1時間で2~4回に分けて摂取し、水の温度は5℃~15℃が飲みやすい（吸収しやすい）。

90分間の試合では、約3gの塩分が抜けるが、タブレットやスポーツドリンクでは回復できない。経口補水液を1ℓ分飲むと約3g分の塩分がとることができる。

この研修会で経口補水液にて塩分を摂取できることと摂取の仕方についても学ぶ事ができた。日常生活の普段の生活から変えていかなければならないと感じました。

### ○自己管理能力

トップアスリートは1日に何回も体重測定を行っている。

トレーニング前後の体重変化①発汗による体水分の損失②水分補給量

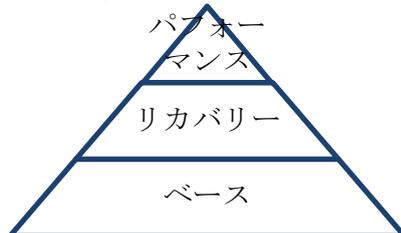
水分補給が出来ていないと大きく体重が減少し、脱水症状が起き、食欲を落とす。

トレーニング前後の体重減少を2%に留めるのが良い。

3%からよくない脱水症状が起こりやすい。

日頃の生活から体重の変化を見逃していると、脱水症状になりやすいと学ぶ事が出来たことは良かったことである。

審判員として100%のパフォーマンスをするためには、ベースとなる肉体や精神的ストレスとどう向き合っていくか、ベースとなる土台が大きいほどリカバリーやパフォーマンスが安定をする。日常生活の中で出来ていることや出来ていない事を知る機会になった。



○プラクティカルトレーニング 黛俊行氏 荒木友輔氏 聳城巧氏

「中盤での動きとポジショニング」「オフサイドの判定」の2つのトレーニングを行いました。オフサイドの判定では、オフサイドのラインが自分の思っているより、ゴールの方へ流れたりハーフウェイラインの方へ流れたりしてしまいました。そのことによりオフサイドの判定に正確性がなかった。タブレット端末による動画分析もできたので、良かったです。

○講義 柏原丈二氏 柳沢和也氏

柏原氏より、フィジカルコンタクトによるビデオを使用した判定の講義をしていただいた。世界的な基準による正当なフィジカルコンタクトをした競技者のプレーに対して見極めをすることで、強い選手を育てる事が出来ると学んだ。

柳沢氏より、ビデオを使用したオフサイドの判定の講義をしていただいた。

6グループに分かれて2シーンを「オフサイド」か「Not オフサイド」かをディスカッションをしました。その後、ディスカッションしたことを発表し、色々な意見を聞くことができて良かったです。

○バニングスプレーの使い方の講義 荒木友輔氏

今大会は、バニングスプレーを使用するという事で荒木氏より使い方の講義をしていただいた。ボールのポイントの円の引き方のポイントや壁を下げた際のラインの引き方を講義していただき、実践をしました。スプレーを真下に向けないと風等で流れてうまく引けないとアドバイスをしていただきました。

○1級と合同での開講式と大会要項の確認 小川佳実審判委員長・抱山公彦全国高体連委員長

JFA 小川佳実審判委員長より、天皇杯にて競技規則の適用ミスがあり、後日対象チームへ説明をし、謝罪をしに現地まで行ったこととお話しいただいた。適用ミスをしてしまうと、怒る競技者や泣く競技者がいるという事を小川委員長のお話しを聞いて改めて思い知った。

抱山公彦全国高体連委員長より「競技者の安全確保に努めていただきたい」とお話しいただいた。WBGT30℃で、15分でクーリングブレイクとクーリングブレイクから10分後に飲水タイムを試合中に取り入れることで暑熱対策をすることもあるとの話をいただいた。

○大会テーマは動きとポジショニング【信頼を得よう】 今村亮一氏

- ①審判団として試合に携わる4人である。
- ②感性と情熱をもち
- ③正しい判定に自信を持ち
- ④審判団として勝敗ではなく信頼を得よう。

## 【研修3日目】8月7日(火)

## [担当試合]

1 回戦 12 時 00 分 KO 東海学園(愛知①)対盛岡商業(岩手)

@三重交通 G スポーツの杜(第 4 グラウンド)

主審 本郷行秀氏 副審 1 福岡渉 副審 2 竹内清人氏 4<sup>th</sup> 若尾佑人氏 Ins 太田潔氏

大会が始まりました。最初の時間帯は緊張しながら試合に臨みましたが、副審として判定の精度やラインキープを心がけました。

反省会では、「ベンチ前でタッチラインを割った際、どちらのチームが最終的にボールに触れたか微妙な場合の見極めについては、主審と連携を取り、慎重に行う必要がある。」とアドバイスをいただきました。

○試合を通しての研修 Ins: 正木修一氏 木村滋氏

アドバンテージの判断基準についてのお話しをいただきました。「主審のポジショニングが近すぎると、次の展開やプレーが見えていなくてアドバンテージが有効に使えない。」そのため、適切な距離感と視線が重要である。

## 【研修4日目】8月8日(水)

## [担当試合]

2 回戦 12 時 00 分 KO 盛岡商業(岩手)対長崎日大(長崎)

@伊勢フットボールヴィレッジ A ピッチ

主審黒川健吾氏 副審 1 高崎航地氏 副審 2 福岡渉 4<sup>th</sup> 高坂凌氏 Ins 山田修平氏

この試合は、前日試合をした盛岡商業の特徴であるオフサイドラインの上げ下げがあったが、「ラインキープとタッチジャッジの判定を間違えずに」と思いながら試合に臨みました。

オフサイドの判定では、ラインが上がっている時に FW の競技者が裏に抜け出した時に見極めができたシーンがあったのですが、簞城氏のプラクティカルトレーニングが実践できたことは良かったです。反省会では、「オフサイドの見極めは出来ているが、近くでファウルがあった時にフラッグアップをして欲しい場面があった。」とアドバイスをいただきました。

○試合を通しての研修 Ins: 有田靖氏 山田修平氏

良いポジションや近くにいる事が説得力へつながる。

ポジショニングと動き+判定=信頼を得る

フィジカル

## ●来年度全国高校総体へ参加する審判員へ●

私は、今回初めて全国大会で良い経験をさせていただきました。

映像を見てディスカッションをする時間がありましたが、自分の思っている事を相手に伝える事は重要である。迷いながら過ごすのではなく、悩んでいる事を解決しながら一日一日を有意義な時間にしていただきたいと思います。次回、派遣審判員として行かれる方は頑張ってください。

## ●最後に●

インターハイという素晴らしい研修会へ参加する機会を与您いただきありがとうございました。また、三重県サッカー協会・兵庫県サッカー協会並びに大会関係者の方々、本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

(掲載: 五十音順)

以上